

特集

「口呼吸」には危険がいっぱい!

第2弾 歯科治療編

前回は、口呼吸が様々な病気の原因となったり、【成長期に口呼吸をしていると不正咬合になる】理由をお話しました。正常な鼻呼吸が行えなくなった場合、人間は気道を広げて酸素を取り込もうとするため、口唇の周りの筋肉が緩み、口をポカンと開くようになり、様々な弊害が起こります。これにより、歯に正常な圧力が加わらなくなり、結果前歯がうまくかみ合わなくなるのです。今回はどのように治療していくかについてお話ししましょう。

Q 口呼吸が原因となる不正咬合に対してどのような歯科治療を行えばよいのでしょうか。

A お子さんが成長期の前の段階にある場合は、「うわあご」(上顎骨)を横に広げてあげることで対応できます。上顎の骨は左と右の骨に分解することができます「正中口蓋縫合」と呼ばれるギザギザのつなぎ目につながっていますが、幼い頃はここがまだ柔らかく、この部分で盛んに新しい骨が造られ、成長していきます。この時期に上顎の歯に【器具をはめて横に拡大していく】ことで、上顎をさらに大きく成長促進させることができるのです。その結果、その奥にある鼻腔(びくう)の容積も広がり、鼻呼吸がしやすくなります。歯が並ぶスペースも増加しますので、その後の矯正歯科治療もとてもやりやすくなるメリットもあります。

取材協力
やまぐち歯科矯正
歯科医院
☎053-461-2906
浜松市中区佐藤2-25-26

院長 山口芳照 先生

インプラント、審美歯科、床矯正、ホワイトニングを得意とする。「自分がクライアント(患者)だったなら「受けたい」と思う歯科医療を提供する」が信条。



上顎を拡大する装置って?

上顎を拡大する装置は、患者さん自身が取り外しのできない「固定式拡大装置」をおすすめしています。固定式装置は取り外しができないため大がかりなイメージですが、24時間仕事をし続けるので効果が確実です。固定式装置の中でもスケルトンタイプの拡大装置は、あまり違和感もなく正中口蓋縫合を広げることができ、優れていると言えます。



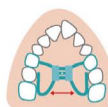
スケルトンタイプの固定式拡大装置



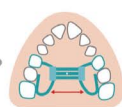
少しずつ左右に広がっていきます。

4カ所の金属製のバンドとスクリュー(ネジの部分)をしっかり和歯にくっつけるのが基本形です。1回につき90度スクリューを回転させることで、1回に約0.2mm広がりますが、これを週2回行うことで徐々に上顎骨を広げます。歯のバンドとしっかりと接着させますので充分な効果が得られます。

実際の治療の流れ



①スケルトンタイプの拡大装置を装着



②上顎を拡大後



③セクショナルアーチ(ブレースと針金)を装着

以上のように、顎の成長の誘導を利用して、上下の顎の良好な関係と歯がうまく生えてくることのできるスペースを獲得しようとする治療のことを「I期治療」と言います。「I期治療」を適切な時期に実施されると、「II期治療」の時に小白歯を4本抜歯される可能性が減ります。とにかく「I期治療」は小学校低学年までの成長期のサポートの前に開始することが肝心です。

中学1年生頃の成長期後半になり大人の歯が生えそろった後、ブレース(ブラケット)と呼ばれる装置を1つ1つの歯の表面に貼り付け、ワイヤーを通して本格的な矯正治療に入ります。

矯正用ミニインプラントを併用したり、程度によっては顎骨の反応を刺激する外科手術を併用することもあります。これらを「II期治療」と呼んで区別しています。

実際には「いつから治療を開始するか」は、歯並びについてしっかりと管理してくれるかかりつけ歯科医に定期的に相談するとよいでしょう。

※各々の歯科医の解釈によっては低年齢からの「I期治療」の効果を過小評価し、中学性になり抜歯を伴う「II期治療」から矯正治療を開始する場合もあります。矯正歯科治療は先天的な病気を除いては健康保険が適用になりません。自由診療となります。

※質問すべてに回答するものではありませんのでご了承ください。尚、これより得た個人情報については他に開示しないものとします。質問はメールにて受付。(E-mail dental@c-shopper.co.jp)まで。